

令和 7年度 園評価書

園番号 52 園名 葵待機児童園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	保護者アンケートより	改善策
愛されてのびのび遊ぶ元気な子～昼間のおうち、家庭的な保育～	「見て！聞いて！触れて！好きな遊びを楽しむ環境作り」～大好きな場所で大好きな人と一緒に～	保育者との応答的な関わりと信頼関係の中で安心して自分の思いを出している	保育者が子どもひとり一人に丁寧に関わり、思いを受け止めることで、自分の思いを表現(声、仕草、表情等)で十分に出すことができる。	A	A	保護者アンケートより	・いつでも保育者が側にいてくれる安心感と信頼関係の中、思いを十分に出し、甘えることができる。再度安心・丁寧な関りとは何かについて確認をし、今後も継続していく
		いろいろなものに興味・関心を持ち遊ぶことを楽しんでいる	・自然物や可動遊具などを準備して子どもの興味や発見に合わせた環境作りを行うことで、子どもは自分でやりたい遊びを見つけ楽しむことができる。	A	A		・子どものつぶやきや興味を受け止め、遊びにつなげている。今後も継続して子どもがこれで遊びたいという気持ちになる環境を用意していきたい
		五感を使って様々な遊びを体験している	砂、泥、水、寒天、スライム等様々な素材に触れる、見る、嗅ぐ等五感を刺激する遊びをたくさん経験できた。季節ならではの感触遊びとの出会いを意識した	A	A		・子どもから気がつく素材との出会い方ができた反面、教材研究をもっと行い保育者がまず知ることを重視していきたい

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	保護者アンケートより	改善策	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個々の発達や生育状況を考慮しながら安心してできる人や場がある	月齢、発達段階、家庭環境等考慮しながら子ども達の安心できる環境となるよう努めた。年齢ごとの“安心”について研修の中で考えたことで、より“安心”について考え、関わり、環境について意識しながら保育できた。	A	A	保護者アンケートより	・子どもにとっての安心とは何かを意識して継続していきたい	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人ひとりの生活リズムに応じて、安心・安定できる環境が用意されている	毎日、個々の生活リズムを把握し、思いを受けとめながら無理なく過ごしていることで安心・安定につなげている	A		A	・保護者からの聞き取りだけでなく、保育者の視点からも個の状態にあわせた健康な過ごし方を継続して作っていききたい
		(3)環境を通して行う教育及び保育	見る、聞く、触る、味わう、など五感を刺激する遊びが工夫されている	子どもの言葉や仕草(目線)などから興味を捉え、環境を整える中で五感が刺激される遊びを意識した	B		A	・子どもの言葉や仕草から遊び環境を整え、色々な経験を取り入れていったが、保育者自身も子どもと共に様々な事象に関心を持つように意識していきたい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害(地震・火災など)や、不審者など保育者一人ひとりが的確に判断し、行動できる	地震ではその都度、規模や種類、イメージを想定して行ない課題を出し、保育者誰もが的確に判断し行動できるように行った また、	B	A	保護者アンケートより	・建物の構造上地震の訓練だけでなく、不審者訓練も課題が多いので様々な想定で訓練を重ね、職員が的確に判断し、行動できるようにしていきたい	
		(1)健康教育の充実	個人差に配慮しながら基本的な生活習慣の自立、心の安定を図っている	一人ひとりに合わせて声掛けや援助を行い、基本的な生活習慣が無理なく身に付くようにしている。どうして行うのか保育者が言葉にすることで、やってみようとする気持ちが芽生え、自信や達成感に繋がっている。	A		A	・子どもの発達やタイミングをきちんと押さえ、保護者と協力して自立を目指していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、全職員が同じ援助のもと育ちを促している	職員会議やクラス会議で子ども一人ひとりについての情報を共有し、全職員が同じ援助で関わることができるよう目指していったが共有については課題が残る	A	A	保護者アンケートより	・担任だけが知っているのではなく子どもとかかわる職員全員が同じ支援ができるように自分事として知ろうとする意識しを更に高めていきたい	
		(1)組織体制の充実	乳児の発達について理解し、子どもの育ちを職員間で共有しながら連携をとって保育している	共通の文献を通して乳児保育について学び、子どもの育ちを共有しながら進めることができた。会議に参加していない職員にも確実に報告をし知らない人がないようにした。	A		A	・共通の文献を柱にしたことで職員が同じ知識の下保育することができた。継続して理論と実践を更に深めていきたい
6 研修	(1)研修体制の充実	子どもの姿にあったあそび環境が用意されかつ、わらべうたを保護者にも発信している	子どもの興味、関心や定期的に環境の見直しを行ってきた。わらべうたは職員全員で取り組んだことで園全体に浸透し、保護者にも毎月わらべうた便りを配信した。参加会やふれあい会を通して保護者に実演、紹介することができた。	A	A	保護者アンケートより	・わらべ歌を通しての子どもの変化が実感でき、今後も継続して取り入れていく。保護者への発信もお便りだけでなくコードモンを使っの配信ができるよう工夫したい	
		(1)教育・保育環境の充実	子どもの発達や興味に合わせ、子どもの心をくすぐるような環境が作られている	子どもの好きを捉えた環境を用意した。実際の経験から「○○したい」が更にふくらみ再構成していったことで子ども達のイメージが実現でき、一層遊びが広がっていった。(2歳)子どもが興味を引く手作り玩具や装飾が施され、ゆったりした雰囲気	A		A	・今後も子どもの発達や興味に合わせてタイミングよく環境を提供し、遊びが広がるようにしていきたい。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での様子を積極的に伝え、相談・悩みなど気軽できる	コドモンでの連絡帳・ドキュメンテーションで子どもの様子を伝えていく。送迎時には直接会話をしたり、参加会、面談を通して家庭での様子や悩みを聞き保護者支援につとめた。	A	A	保護者アンケートより	・定期的な面談だけでなく、個々の姿に応じて随時面談を行ったことで家庭での様子が見え、保護者への情報提供の場にもつながった。今後も継続して続けたい	
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園児と交流する機会が取れ、公開保育を通して保育者の交流がある	連携である長沼こども園と交流、近隣のおひさまの森とのつながりができた。七夕では市立高校との交流を持つことができた。	A		A	・今年度、市立高校や近隣園とつながることができたので少しずつ広げていきたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	待機児童園の存在が分かり、地域の方にも喜ばれる環境(花壇・園芸)が作られている	駐車場、園舎、避難者等に看板を付け、場所を分かりやすくした。また、園芸や季節の飾りなどで目で見ても喜んでもらえる環境作りができている。	A	A	保護者アンケートより	・あおばの場所が分からない人が多かったが、看板ができたことであおばの存在が広がることを期待する	